

就労リング事例：乳がん 40歳 未婚

2013年3月 ソーシャルワーカーに相談

「4月から転職の予定だったが、4月乳がんの手術を受けることになり、治療が落ち着くまでは就職は保留にしている。転職が決まる前に病気がわかっていたら辞めなかつたとも思う。必要な手続きを教えてください」 3月末で現職は退職し、国保手続きをされる予定

↓ MSWより、限度額認定証手続きの説明。また保険の資格が切れたら国保加入にすぐに行くよう説明。任意継続という選択肢も説明し、加入している組合に相談を勧めた。

↓ 3月末 新しい雇用先より、治療専念を理由に内定取り消し。無職。

↓ 主治医より、「就労リング」を紹介され参加（精神腫瘍科医、看護師、MSW、社労士も参加）

↓ その後、社労士と数回 個別相談 内定取り消しについて交渉することも検討

↓ 新しく仕事を見つけることを決心

6月 術後、抗がん剤治療を病院で受けながら、パートで仕事を開始

↓ 9月 就職活動 就労リングで得た知識が活用できた
健康診断の書類作成など、就職に関する主治医との調整を、相談支援センターでも支援

↓ 12月 正規採用決定

↓ 2014年 3月より再就職



就労リング参加者の声(自由記載から抜粋)



1. 「問題解決能力の高まり
会社側の業務、働く側の権利についての労働関係法規を学ぶことができたのは大きな財産。会社からサポートを得るため職歴上、法律知識は不可欠で、ツールを得ることができた。
2. 「参加者全員の知識がレバレッジされている
・ 10年近く仕事と精気を両立している人もいて、それぞれの困難を乗り越えてきた経験が共有できた。準備されたプログラム以上の情報を、引き出すことができていると思う。
・ 他の人の質問を聞くことで、自分も気づかなくさんの気づきがあった。
3. 「現実の難しさ及びその対応
がん患者が抱える就労のリアルな現実について具体的に知ることができたとし、その解決策もテキストやDiscussionで示され安心した。
4. 「詳細な社会保障制度の説明
保険の種類ごとに(国保とそれ以外)という経済的支援があるかを具体的に知ることができた。また備病手当金を申請する時の落とし穴に対する注意喚起は、役にたった。
5. 「病院関係者とのネットワーク
・ 主治医以外に病院で自分を支えてくれる人がいることに気づくことができた。1人で抱え込まなくなりました。
・ 就労リングで素敵な先生や同じがん患者にお会いできてきること毎回の楽しみだった。コネクションができてどれ程の力になったことが、何かあれば駆け込もうと思う。そう思えれば毎日が安心
6. 「患者同志のネットワーク
・ 就労しているという共通項をもった我々は、他の患者会のネットワークより強い結びつきを感じます。就労に関するノウハウを先輩患者皆さんがシェアしてくださいますし、その間柄の姿勢に勇気を頂きます。皆が互いに支えあう場が生まれました。この就労リングで育まれた友情を大事にしています。
・ 自分の悩みが妥当かわらなかったが、皆も同じなんだと共感できて、とても安心できました。
7. 「テキスト
テーマ別になっており読みやすく使いやすくサンプルが豊富。会社とのコミュニケーションにおける話の持って行き方などがテキストにあい、会社に復職支援サポートを頼むところが最もエネルギーのいるところで、神経をつかうところなので、役にたちました。
8. 「先生方の熱意がセッション成功の原動力
勉強会を通じて実は多くは多くの精神的ケアもしていただいていたように思います。このセッションの成功の要は、ファシリテーターの熱意によるところが大いだと思います。マニュアルにぞって行ってでも支援したいという熱意があれば、孤独に闘っている患者の力になりにくいと思う。